



小田急グッズがずらりジオラマ運転もできる電鉄直営ショップ

大きなジオラマと岩崎店長

小田急電鉄のグッズがそろっているショップが「TRAINS (トレインズ)」。小田急線と和泉多摩川駅のホームの下にある店内には、鉄道ファンだけでなく、おとなから子どもまで楽しめるさまざまな小田急に関連したグッズがずらりと並んでいる。

模型ファンにはこたえられない精密なHOゲージの

ロマンスカーなどの電車の模型から、Bトレイン、チョコQ、DVD、ジグソーパズル、タオル、クッション、携帯ストラップ、根付

け、鉛筆、入浴剤、目覚まし時計、帽子、折り畳み傘など、その数100点以上。価格も10万円以上もする模型から、子どもに人気が高い500円のシールブック、100円のクリアファイルまで幅広い。どのグッズにも電車などのイラストや写真をあしらうなど小田急

にちなんだデザインが施され、小田急ファンにとっては魅力的な品ばかり。なかにはロマンスカー VSEのシートと同じ生地を使った

座ぶとんといったファンには見逃せない品もある。

小田急電鉄の直営店として平成16年にオープン。初めは電車の部品なども販売したため、鉄道ファンが中心だったが、グッズの多様化とともに現在では親子連れが多くを占め、土曜、日曜などは、小田急沿線の遠方から訪れる客でにぎわう。店の中央には横3.2m×1.7mの大きなNゲージのジオラマがあり、好きな電車を有料で運転できるなど、子どものおもちゃ屋の役も果たしている。

TRAINSはその後、新宿駅西口地下にもできたが、店の規模や品揃えなどの点からも和泉多摩川店が中心。商品開発のためのアンテナショップとしての役割も果たしている。

駅員として13年勤務した後、17年に2代目店長になった岩崎恭一郎さんは「最初は、畑違いの仕事で勝手がわからずたいへんでしたが、水辺の楽校では冬でも彼らを見ることのできる。ほかのオタマが2カ月ほどでカエルになるのに対し、ウシオタマは冬を越し、なんと2年がかかりで変態するからだ。それだけに体も大きく、成長すると12~15cmにもなる。

TRAINS

DATA ▶ ☎3489-6199 東和泉4-2-1 営業 午前11時~午後6時 月曜(祝日の場合翌日)・新年は3日から



この欄で紹介したい特徴ある品物やお店がありましたら地域活性課へお知らせください

あの店...この一品

子どもの柔道指導 西川さんに善行表彰

狛江市西野川の家犬しつけインストラクター西川文二さん(51)が、10年間にわたって子どもたちに柔道の指導を続けてきた功績に対して、社団法人日本善行会が平成20年11月21日に明治神宮参集殿で催した善行表彰式で、全国から選ばれた724の団体・個人のひとりとして

表彰された。

日本善行会は、善行活動を実践・継承するため、毎年春と秋に青少年の健全指導、環境美化、事故防止、社会福祉、緊急時貢献、国際貢献、外国人善行などの分野で活動する団体や個人を表彰している。表彰は、全国各地の自治体、教育委員会、善行会支部から推薦された候補の中から選ばれ、平成19年度までに約53,000を超える団体・個人が表彰されている。

高校時代に柔道をやっていた西川さんは、11年前に子どもが「狛江市柔道クラブ」(池田悦雄代表)に入り、付き添いで通っているうちに再び柔道を始めた。その後、池田代表から指導者の一員にと誘いを受け、10年前からボランティアで子どもたちに柔道を教えている。



子どもに柔道を指導する西川さん

クラブは、市民総合体育館で週2回9時~10時30分まで行っているが、西川さんが担当するのは、仕事の休みの水曜日で、主に幼稚園児から中学生に、体の回転のさせ方、受け身などの基本から投げ技、寝技までを指導している。一時、クラブの子どもが少なくなったため、子どもに魅力のあるクラブに

しようと、代表と相談して、ただ厳しくするのはなく、楽しく練習

できるようにやさしく接するように心がけ、大会の数を増やすなど工夫。その結果、子どもの数が再び増えた。西川さんは小さな子もいるため「ケガをしない、楽しい、長く続ける」をモットーに、笑顔でいいいな指導を心がけており、子どもたちに人気があるという。

3年前に善行会の表彰を受けた池田代表が、自分の子が退会した後も、忙しい仕事の合間にボランティアとして休まず指導を続けていることに報いようと、善行会狛江支部(佐藤全弘支部長)に推薦状を提出、今回の表彰となった。

西川さんは「表彰は名誉なことですが、通過点のひとつ。これからも柔道が楽しく、好きになる子が増えるよう指導していきたい」と話している。

水辺の楽校 冬を越すウシオタマ

多摩川の小さな仲間たち

オタマジャクシ

ウシ年ならぬ、ウシガエルのオタマジャクシ(写真)を紹介しよう。オタマジャクシといえば春のイメージだが、水辺の楽校では冬でも彼らを見ることのできる。ほかのオタマが2カ月ほどでカエルになるのに対し、ウシオタマは

冬を越すウシオタマ



冬を越し、なんと2年がかかりで変態するからだ。それだけに体も大きく、成長すると12~15cmにもなる。

陽春になるとアカガエルやヒキガエル、ダルマガエル、アマガエルなどのオタマジャクシも見られるが、黒い塊となつてうごめく彼らは、かつて春の小川の風物詩だった。最近

はそうした環境も少なくなつて、めっきり数を減らしている。毎年開いている水辺の楽校のオタマジャクシ観察会で「初めて見た」という子が多いのも無理からぬこと。

オタマジャクシを漢字で書くと「御玉杓子」。英語でもtadpole、小さなシャモシの意味だ。見れば見るほど柄の

ついたお玉のようでも、音符の♪のようでもある。

水辺の楽校ではもうすぐアカガエルの1番子が産まれ出る。ドイツの詩人

ゲーテいわく「水のあるところにカエルがいるとは限らない。だがカエルの声の聞こえるところには水がある」。いろいろな生きものがいてこそ水辺の楽校だ。ことしもたくさんの方が聞こえる水辺づくりをめざしたい。

文と写真=狛江水辺の楽校運営協議会副会長・竹本久志

サトイモ

子孫繁栄を願う縁起物として正月料理にもよく使われるサトイモは、日本料理に欠かせない冬野菜の代表選手。

インド東部からインドシナ半島の熱帯アジアが原産

で、日本へは稲より早く伝わったといわれ、万葉集の歌にも登場する。江戸時代以前は、イモと言えばサトイモを指していた。山地に自生する「山芋」に対し、里で栽培するため「里芋」と名付けられた。他のイモに比べカロリーが低く、たんぱく質やビタミンB1、カリウムを含み、食物繊維が多いため、ダイエット食品として人気がある。

「親芋」と呼ばれるイモを畑に植えて栽培、湿った土を好み、連作すると収量が減るといふ。

市内では多くの農家が栽培している。岩戸北の三角利一さんは、品種はわか

らないが、代々作り続けているイモと小ぶりでもめりが多い石川早生の2種を栽培。3月下旬から4月初めに親芋を植えて追肥をし、暑



くなる前に土を高めに

かぶせ乾燥などを防ぐ。駒井町の高橋弘さんは、代々使っている1種のみを栽培。3月中旬に畑にぬかをまき、下旬に親芋を植える。茎が15cmに伸びたころ、追肥をして土の表面に枝豆の葉などをかぶせて乾燥や草が生えるのを防ぐ。

いずれも11年半ばから収穫するが、寒さに弱いため霜があたる前にすべて掘り取り、冷暗所などにムシロなどをかぶせて保管、前年に約8割、残りを翌年1月までに泥付きで出荷する。出荷するときは、親芋から小芋を手で分け、ひげ根を包丁などで切り取る作業に手間がかかる。

..... 稲より早く渡来した冬野菜の代表選手